（第３種郵便物認可）　2014年（平成26年）5月27日　火曜日

潮流

Ｔｂｆ代表取締役
人間力トレーナー兼演技コーチ
因藤　亘洋

コミュニケーションと「言葉がけ」の選択

4月のコラムで、私が広島カープファンであることをお伝えしましたが、今月、米子市民球場で広島対阪神戦が開催されましたねぇ！コラムをお読みになっている方々の中には行かれた方も多いのではないでしょうか。地元、ましてや選手を近くから観戦できる地方球場での開催。帰郷しての選択」に関しての一足を運ぶことができなかった私としては、行かれた方々がうらやましい限りです。

さて、今月は、私がコーチングしている「表現指導」のなかに「コミュニケーション意識」例となります。

下記は、アメリカ・スタンフォード大学の心理学教授が行った「教育における子どもの褒め方」についての実験からなのですが、職場でのマネジメントにも通じています。

まず、生徒全員に難しい問題を解かせ、その後、生徒を二つのグループに分け、一方のグループでは「○○問正解。良くできた。頭がいいね！」と〝能力〟を褒め、もう一方のグループでは「○○問正解。良くできた。頑張ったね！」のように〝努力〟を褒めました。

またその後、生徒たちに新しい難題に挑戦させたところ、「頭の良さ＝能力」を褒められたグループは、難問を解くことにフラストレーションを感じる傾向が強かったことに対し、「努力」を褒められたグループは、「難しい問題は面白い」と答える子どもが多く、9割にも上ったそうです。

これは「努力したこと」を褒めたことで「努力すること」に喜びを感じるようになったということです。このことから人は、「能力」ではなく「努力」を褒めることにより、積極的に難しいこと・新しいことにチャレンジするようになり、その後もスキルを高めていくということがいえます。

これは子どもに対する実験結果であり、お子さんの成長教育の一つ案ともなりますが、職場におけるマネジメントにもいかせる部分があるのではないでしょうか。

コミュニケーションと言葉がけの「選択理論」でも、どのような「言葉がけ」を行うかは重要な要素となっていますが、今回の内容が何かの参考になれば幸いです。表現・コミュニケーションなどに関してのご相談など、いつでもお気軽にお問い合わせください。

（東京都、米子市出身）

もし社員が、また子どもが、良い仕事、テスト結果を持って帰ってきたとき、「良くできたわ。頭がいいね！」あるいは「良くできたわ。頑張ったね！」―あなたなら、どちらの褒め方をされるでしょうか？

その中でも、「言葉がニケーション」に関しての表現指導を求められることも多いので、「人の可能性を最大限に引き出すようなコミュニケーション意識」ということに関してお話させてもらおうと思います。